

精密聴力操作方法

《この検査では各周波数での聴力の聞こえるレベルを検査します》

検査周波数 1000Hz 2000Hz 4000Hz 6000Hz 8000Hz 500Hz 250Hz

3000Hzが出ますが検査しません
8000Hzの後に1000Hzが出ますので間違えないでください

聴力レベル -10dBから90dBまで5dBずつ操作

《 操作方法 》

・検査音が聞こえたら、応答ボタンを押し続けてもらうように伝える
『音が聞こえましたら、お手元のボタンを押し続けて、聞こえなくなったら指を離してください』
(一瞬だけのボタンだと聞こえているのか、押し間違いか分からない為)

・検査は1000Hzの0dBで右耳から始める。 画像①

・インタラプターをゆっくり押す(2秒弱) 画像②
(防音室等で検査する為、インタラプターを押す音も聞こえてしまいます)

・反応が無い時には【聴力レベル】の+を押して聴力レベルを5dBずつ上げていく 画像③

・応答ランプが点灯したら【聴力レベル】の-を1回押して、dBを20下げる 画像③
(-10dB以下は無い為20dB下げれなかったときは-10dBから始める)
(0dB以下でも音は出ているので、ボタンを押す受診者様もいます)

・同じ検査方法でもう一度検査しますが、応答ランプが点灯した一つ手前のdBから少し長めにインタラプターを押す。
(どのdBでボタンを押しているのか正確に確認するため)

・同じdBで2回ボタンが押されるまで同一周波数で検査する

例1	1回目 30dB	例2	1回目 30dB
	2回目 25dB		2回目 25dB
	3回目 30dB		3回目 35dB
			4回目 25dB

例1 の場合は1回目と3回目と同じ為、30dBと記載。
例2 の場合は3回目まで全て異なる為、4回目を実施。2、4回目が同じなので、25dBと記載。
反対の耳、もしくは次の周波数を実施する。

・2回押したdB数を特殊の受診票に記載。 画像④

・【周波数切り替え】を押して検査周波数、7種類を左右の耳を検査します 画像⑤

・通常の聴力検査も同時に受診する受診者様がいた場合には、精密聴力で検査した1000Hzと4000Hzの結果を使う。
(30dB以下なら問題無し)

《 注意点 》

・防音室や静かな部屋での実施が不可欠です。
周りの音がうるさいとき(チャイム、放送、トラックなどの車両音、工場・工具音)は一時中断してください。

・90dBでも聞こえない場合は、【 99 】と記載してください。



【② ↓ ③】を繰り返す

